

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月26日 NO.91

モンタ博士「オー君は、オオイヌノフグリを本当（ほんとう）によく観察（かんさつ）したね。目で見ただけでなく、自分でも花びらにふれたところがすごいね。

手でふれてもみて、直接体験（ちよくせつたいけん）は、やっぱり大切だ。」

花ちゃん「本当にその通りですね。ところで、オー君の発見したことを教（おし）えて。」

オー君「この前、手でふれた時には、ポロンとおちたけど、今日は落（お）ちないよ。」

モンタ博士「それは、つまり、時間だよ。花にふれた時刻（じこく）が問題なんだよ。」

花ちゃん「ますますわかんない。なんだかミステリー小説（しょうせつ）みたいだわ。」

モンタ博士「この前、オー君がオオイヌノフグリの花びらにさわった時間は、午後だね。

それも、だいぶ夕方（たふぐ）に近い時間（じかん）じゃないかな。そして、今日は、まだ午前中（ごぜんちゆう）だろう。ここにこの不思議（ふしぎ）さを解（と）くカギがあるんだよ。」

オー君「オオイヌノフグリの不思議？ひみつを解くカギ？」

わりばしを置いて、範囲を決めて観察しました（モンタ博士自宅近く）。

花ちゃん「朝と午後？これが何か関係あるの。」

モンタ博士「つまりね、オオイヌノフグリという

始めは花を閉じたままなんだよ。

朝日を受けて花びらを開くのさ。そ

れから、くもったりすると、すぐに

花を閉じてしまうのさ。そうしてい

るうちにおしべの花粉（はなご）がめしべにつ

いてしまうんだね。これを受粉（じゆうふん）とい

うんだ。理科で勉強（べんきやう）するよ。」

花ちゃん「私、覚えているわ。虫（むし）たちがやって

きて受粉（じゆうふん）することもあるんでしょ。」

モンタ博士「そうだね。虫（むし）たちも活躍（かつやく）してくれる

ね。でもね。オオイヌノフグリとい



平成26年2月23日 午前10時ころのようすです。約30こくらいの花が開いていた。



平成26年2月23日 午後4時ころのようすです。花が閉じて、ほとんどが落ちていた。



オオイヌノフグリ（学名 *Veronica persica*）

うやつは、夕方になってお日様がしずむころになると、花びらが閉じてしまい、虫たちの力をかりなくても自然に受粉してしまうのさ。こういうのを自花（じか）受粉というのさ。そこで、問題であるポロンなんだけど。」

オー君 「そうだ。ポロンが問題だったんだ。どうして、ポロンとなるの。」

モンタ博士「それは、受粉がすんでいれば、もう虫に来てもらわなくてもいいから、花びらを広げておかなくてもいいから、それで、ポロンと花びらが落ちるのさ。」

花ちゃん 「ということはですね、ということは、ポロンとおちた花というのは、もう受粉が終わった花ということですね。」

オー君 「ふーん。それじゃ、いろいろと指でさわってみようよ。花ちゃん。」

モンタ博士「そうだね。遊びながらやっごらんよ。遊びながら実験（じっけん）してもいいね。例えば、時間を決めて、1時間ごとに100個くらいずつさわってみてさ、それを表にまとめたり、グラフにしたら、こりゃ、遊びじゃなくて、ものすごい研究になると思うね。」

花ちゃん 「何だかおもしろそう。ただ見ているだけではわからないことでも、いろいろとためしたり、さわったり、考えたりしていくと、本当におもしろいことがわかるんですね。それを『科学』（かがく）っていうんですね。」